

第2回景気ウォッチャー調査研究会 議事概要

- 1 日時：令和7年7月18日（金）16：00～17：45
- 2 場所：中央合同庁舎8号館 818会議室（ウェブ会議システムを併用）
- 3 出席者
 - （1）委員（座長以外は五十音順）
宅森昭吉座長、岩下真理委員、鈴木将之委員、土屋隆裕委員、
広田茂委員、前田和馬委員、大和香織委員
 - （2）ヒアリング参加有識者
斎藤太郎 株式会社ニッセイ基礎研究所経済研究部経済調査部長
鈴木雄大郎 大和証券株式会社エクイティ調査部エコノミスト
川島正敏 大和証券株式会社エクイティ調査部エコノミスト
新田堯之 株式会社大和総研経済調査部主任研究員
 - （3）オブザーバー
岩田賢 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社副主任研究員
 - （4）内閣府
吉岡秀弥政策統括官、茂呂賢吾官房審議官、
木村順治参事官、菊地康之参事官補佐、坂口博紀参事官補佐

4 議事概要

主な意見は以下のとおり。

- ・景気循環は景気の方角で決めるので景気ウォッチャー調査が方角を聞くのには意味がある。ただ、方角を見るのに水準も有用であり、現在の現状水準判断DIは参考系列だが主系列になるべきものかもしれないという考え方もある。
- ・ウォッチャーの構成比（家計7：企業2：雇用1）が適切か、改めて検討してもよいと思う。一方で、調査設計を見直した結果、過去のデータと継続性がなくなることは避けてほしい。
- ・調査結果を日本のマーケットで消化させるため、公表時間を前倒しして朝に変更してはどうか。
- ・速報性のある地域別データが乏しい中、景気ウォッチャー調査の速報性は貴重。災害などが起きた際にその影響が最も早く分かる統計でもある。速報性は引き続き重視してほしい。
- ・サンプル数が拡充されれば様々なテーマで分析が可能になる。特に雇用関連でのサンプル拡充は検討してもいいと思う。

- 設問を増やすのであれば、賃上げ動向が注目される中、賃金関連の設問を増やすことが良いのではないか。
- 地域間の比較をすると、特に足元では沖縄が強いように見える。地域ごとにバイアスがないのか検討して、バイアスがあるのであれば水準調整についても考えてはどうか。
- ユーザー視点で言えば、変えてほしくないところとして、統計の連続性、公表の速報性、コメントの文章量、街角景気ならではの回答群。改善案として、サンプル数の拡充、賃金関連の設問の拡充、地域ごとのバイアスの調整、エクセルデータの形式の固定。
- テキスト分析をする分析者が増えているが、コメントの文章が増加すれば分析の幅が広がる一方、文章量が増えすぎると分析の処理に時間がかかる。文章量の増加ではなく密度の濃い内容にすることを目指すべきだと考える。
- データサイエンスの観点から、景気ウォッチャーのテキストデータはクリーニングされており、テキスト分析に非常に有用だと思う。さらに分析が行いやすくなるよう、表形式を整えたり、手間を軽減させるため年単位のデータが公表されるとよい。
- 代表性は検討すべきだが、近年増加している家事代行サービスや、転職エージェントをウォッチャーの業種として新たに追加することも面白いのではないか。

(以上)